平成３１年度　校内研究会

１　研究主題

『自ら考え表現し対話を通して学びを深める生徒の育成』

～課題解決を通してコミュニケーション能力を育む～

本校が考えるコミュニケーション能力とは

いろいろな価値観や背景をもつ人々による集団において，

①　相互関係を深め共感しながら人間関係やチームワークを形成する

②　正解のない課題や経験したことのない問題について対話をして情報を共有する

③　自ら深く考え互いに考えを伝え合い深め合う

ことで，合意形成，課題解決をする能力

２　研究の視点

Ⅰ　教材の活用

「特別の教科である道徳」の授業では，教材そのものを読み深めるのではなく教材を題材とし，道徳的な課題を一人一人の生徒が自分の問題として捉えること，自分のよりよい生き方について考えを深めることを目指す。そのために，教材を基に自分たちの考えを出し合う話し合い活動と自分の考えを深める活動を授業の中に設定する。これらの活動において考えを深めるためには，教材の活用に仕方にも工夫が必要である。考えさせたい課題を焦点化することが必要である。

Ⅱ　話し合いを深める発問

生徒にさまざまな価値観から物事を多面的，多角的に考えさせるには，多様な考えや意見が期待できるような発問を設定する必要がある。生徒の発言を広げたり深めたりするための補助発問を取り入れることで話しあいを深める手立てとする。

Ⅲ　話し合いを活性化する手立て

生徒全員に自身の意見を明らかにし，自分自身を振り返らせる機会を与えるために 4 人程度の小集団での話し合い活動を設定する。その後，学級全体で「考えを出し合う」「まとめる」「分類する」「比較・検討する」ことを取り入れる。表面的な意見交換に終始させない為に，補助発問をファシリテーターとしての教師が発することで，話し合いを深めさせる。

Ⅳ　自分の考えを深める発問

物事を多面的，多角的に考えさせたうえで，自身のよりよい生き方について探求する発問を行い，個人で考えさせる時間を設定する。

３　研究仮説

多様な考えや意見が期待できる発問を設定し，話し合うことで他者の考えを主体的に聞き，話し合いを深めることで，生徒のコミュニケーション能力の育成が図れるであろう。

本研究では上記のように仮説を設定し，検証授業を行うとともに，その成果と課題について検証することとした。

目指す生徒像　①人の話を聞いて理解することができる生徒
②自分の考えをもつことができる生徒
③他の人の考えを取り入れながら，自分の考えを再構成することができる生徒

４　研究方法

Ⅰ　研究構造図

「平成３０年度全国学力・学習状況調査」の生徒質問紙（本校第 3 学年対象）の分析
「生徒の間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができる」
「自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組み立てなどを工夫して発表していた」の項目に課題

↓

「道徳に係る教育課題の改善等について」中央教育審議会の答申（文科省　平成 26 年 10 月）
「考える道徳」,「議論する道徳」への質的転換が図られた。

↓

全職員が関わることのできる「特別の教科である道徳」におけるコミュニケーション能力の育成

↓

研究主題　『自ら考え表現し対話を通して学びを深める生徒の育成』
～課題解決を通してコミュニケーション能力を育む～

指導過程のモデル

導入	視点１　資料の活用
展開 〈話し合いを深める発問〉 自分で考える 小グループで考える 全体で考える 〈自分の考えを深める発問〉 自分で考える	視点２　話し合いを深める発問 視点３　話し合いを活性化する手立て 視点４　自分の考えを深める発問
終末	